



フランスのトゥールーズから取り寄せたパステルのタネ（莢）。19年からは、自家採種した気仙沼産のタネで栽培を始める

若いママたちの北の染色工房

## まぼろしの染料植物 パステルを栽培

藤村さやか（宮城県気仙沼市・インディゴ気仙沼代表）

### 子育て女性の仕事を

宮城県気仙沼に居を移すきっかけとなったのは、女友達に誘われた一泊旅行でした。テレビで見た東日本大震災の津波の映像が記憶に残っており、この地のことが気にかかりながらも、何をすればいいのかわからなかった。そんな頃でした。縁とは不思議なもので、旅先の気仙沼で出会った男性と結婚し、小さな命を授かりました。私は長年暮らした東京の家を引き払い、新しい町で初めての子育てに奮闘することになりました。

気仙沼も少子高齢化の波にあらがえず、過疎地域に指定されています。子供が少ないということは、現役ママ世代も少な

### パステル

アブラナ科タイセイ属の2年生植物。ウォード（和名ホソバタイセイ）と同一種とされるが、詳しくはわかっていない。

気仙沼では、4月に播種、5月中旬に定植し、6月下旬～11月初旬にかけて5回ほど葉を収穫する。翌春にはトウ立ちして150cmほどの丈になり、5月頃、黄色の花が咲くので自家採種できる。



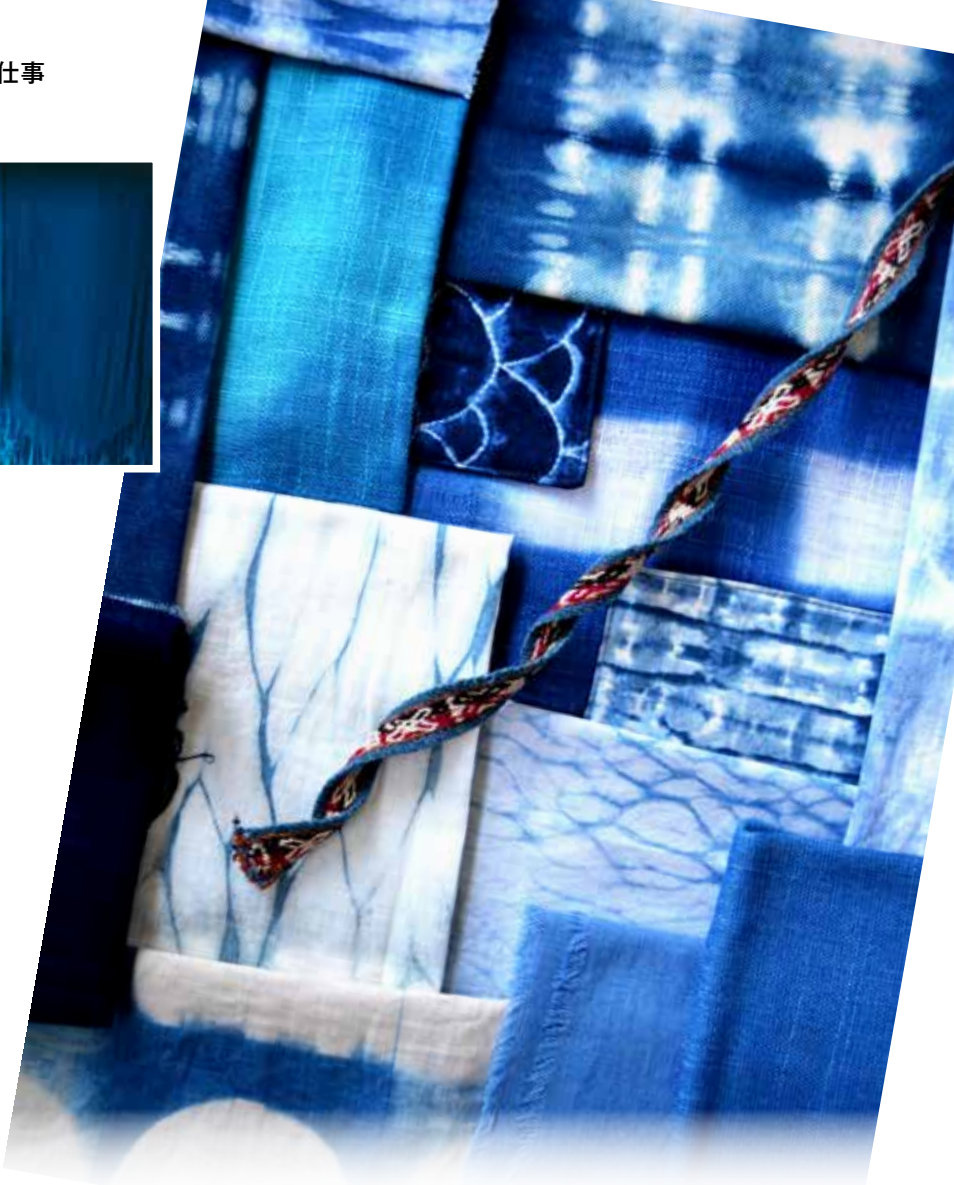
パステルの収穫。夏至前後から11月初めまで5回収穫する



筆者



工房で染めた生地。  
これは購入したイン  
ドアイの粉末で染め  
たもの



く、それぞれが孤立しやすい。子育ての悩みや情報を持ち寄ろうと、ママ向けのイベントを開催しました。そこで知り合ったママたちから、「小さな子供がいても働いて収入を得たい」という声をよく耳にしました。

そこで、「気仙沼＝海＝ブルー」がイメージしやすく、子供をおんぶしながらでも空いた手で仕事ができる染色工房を構えようと考えました。染色についての論文を読んだりして勉強しながら、2015年に工房を立ち上げ、店頭販売を始めました。

メンバーは小さい子供のいるママをはじめとする12人。子育てや家事の合間をぬって染色・縫製や事務などの仕事に出ています。

主な事業は個人や企業からの染色受託と、オリジナル小物の販売。ママたちの若い感性でもって、モダンなインディゴ作品を得意としています。コーディネートが決まりやすい薄手ストール、野良仕事に適したスタイリッシュなTシャツや割烹着、インディゴの抗菌性を生かしたおむつ袋などベビー用品も。試行錯誤の連続でしたが、おかげさまで売り上げは